

令和5年11月号

ノアファミリー

春日部セントノア病院

〒344-0001
埼玉県春日部市不動院野1112-1
TEL048-760-1200
FAX048-760-1201
<https://www.saintnoah-kasukabe.jp>



2023/10/21 秋祭り

スナッフ写真集



ほんのひとつきではありましたが、皆さんにとって心に残る時間になったらうれしいです。皆さんご協力ありがとうございました。

～目次～

- 病院短信
- 日常の一コマ
- いきいき看護・介護
- P SWだより
- 秋祭り
- スタッフ紹介

- 津田 亮祐
- 勝田 梨恵
- 千葉 理絵
- 渡邊 正基
- 渡邊 有香

11月の予定

◇誕生日会

1病棟	11月 6日 (月)
2病棟	11月 13日 (月)
3病棟	11月 7日 (火)
各病棟デイルーム 14:00~	



スタッフ紹介

1病棟 介護福祉士
わたなべ ゆか
渡邊 有香

星座：ふたご座
趣味：史跡巡り
休日の過ごし方：子供と遊ぶ
好きな食べ物：くだもの、唐揚げ



入社して2ヶ月が経ちました。普段は二人の子供の子育てに日々追われています。子供が産まれてからは行けていませんが、史跡などを巡る事が好きでよく出かけていました。これからも先輩方にご指導いただきながら楽しくお仕事していきたいです。



病院短信

『秋祭り』

事務長 津田 亮祐

当院では、毎年10月に恒例行事として「秋祭り」を実施しています。この秋祭りは、患者さんに懐かしいお祭りの雰囲気味わっていただくとともに、ご家族の皆様にも患者さんとのひとときを楽しんでもらいたいとの思いで開催しています。

コロナで3年間は自粛を余儀なくされ、昨年は感染対策をした上での縮小開催でした。そして今年、コロナが5類感染症に移行されたことも後押しとなつて、通常の規模で開催することが出来ました。爽やかな秋晴れの下での秋祭りは例年以上の盛り上がりで、ご参加頂きました皆様にはこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

とは言いましても、当院の患者さんが高齢者であることに変わりはなく、コロナやインフルエンザ等の感染症を院内に持ち込むことは相当なリスクとなるため、秋祭りの通常開催は勇気のある決断が必要でした。そのリスクを負ってでも患者さんとご家族の団らんの時間を設けたい、そこには事務局長の熱い思いが反映されています。

当院はご家族の面会を重要視しています。なぜなら、スタッフがどれだけ認知症ケアのテクニックを磨いたとしても、ご家族と会っている瞬間を越えるケアはできないからです。そして面会時の患者さんの穏やかな表情を知っているだけに、ぜひご面会にお越しいただきたいと考えているわけです。当然、遠方にお住まいの方もいらっしゃいますし、お仕事が忙しくてなかなか来院できない方もいらっしゃるでしょう。それでも、秋祭りを開催することによって、患者さんに会いに来るきっかけの一つになれば、という思いです。



ば、という思いです。

秋祭りに来院されたあるご家族の方に、帰りがけに嬉しい言葉を頂きました。「今回初めて参加させてもらいましたが、こんなに盛大に行われるとは思っていませんでした。私たちが家族もすごく楽しめました。本当にありがとうございます。企画運営する側としては、準備の苦労がいつぱんに吹き飛ばすような気持ちになりました。」

患者さんにとって、ご家族と過ごすひとときは何物にも代え難い時間だと思います。そのような場を提供できたこと、患者さんやご家族の笑顔がたくさん見られたこと、とても嬉しく思います。そして来年もまた秋祭りでお会いできることを楽しみにしています。

日常の一コマ

今月は2病棟の守三さん(98歳)をご紹介します。守三さんは埼玉県で5人兄弟の4番目として生まれました。22歳で結婚されて4人の子宝に恵まれた守三さんは、96歳になるまで野菜などを作りながらご家族と幸せに暮らしていたそうです。ところが、令和3年頃より物忘れが多くなり、「テーブルの上に虫が見える」などの幻視がみられるようになったため、近医を受診したところ、レビー小体型認知症と診断を受けました。

その後しばらくはデイサービスを利用しながら自宅での生活を続けていましたが、令和5年2月、さらに落ち着きがなくなり、頻繁に大声で叫ぶようになりました。それどころか、食事や水分、処方されている薬も全く摂取しなくなってしまったのです。精神科の病院を受診しても症状は改善されず、自宅での介護が困難になったため、当院に入院することとなりました。

入院当初の守三さんは自分一人では立ち上がれないくらい弱っており、かなりの脱水状態でした。そのうえ独語・多動・せん妄などの症状が強く、食事や服薬を頑なに拒否されます。そこで、貼るタイプの抗精神薬(不安や緊張、興奮などの精神症状を改善する薬)を使用し、車いすに乗ったままデイルームで点滴を行いました。また、「おじいちゃんがいつも使っていた湯呑みなんです。これなら飲んでくれるかもしれません」と、入院時にご家族が持参した湯呑みでお茶を渡すと、少しずつですが飲んでくれました。さらに、食事を介助しても口を開けてくれなかったため、守三さんの手のひらに「一口味見してもらえますか」と乗せると食べてくれました。それを何十回も繰り返したところ、2週間後には全量摂取されるまでになり、精神状態も安定し、抗精神薬も一ヵ月程で止めることが出来ました。



守三さんは、難聴で他患者さんとのコミュニケーションが難しく、一人ポツンとしていることが多くあったため、作業療法の園芸や制作活動への参加を促しました。すると、園芸ではもともと農業をしていたこともあってイキイキと活動してくださり、制作では真剣に几帳面な作業をされています。今では入院当初の守三さんの姿は思い出せないくらい、歩行、トイレ、食事、整容すべて自立されています。とても98歳と思えないくらいお元気です。

守三さんの笑顔がこれからもずっと見られますように、見守っていきたいと思います。

2病棟 看護師 勝田 梨恵

PSW だより

11月に入り、空気の冷たさに身震いする日が増えてきました。今年はインフルエンザの流行時期が早いこともあり、体調管理には一層気を付けていきたいと思えます。

先月は当院で秋祭りが開催されました。お忙しいなか非常にたくさんの方にお越しいただき、誠にありがとうございました。今年には特に制限を設けず実施しましたが、いかがだったでしょうか？

認知症の患者さんは認知機能の低下により、月日の流れを把握することが難しいです。そのため、定期的にイベントを開くことで、四季の移り変わりを感じてもらっています。その中で秋祭りが担う役割は非常に大きく、患者さんだけでなく、ご家族の皆様にも、春日部セントノア病院がどのような場所か、改めて知ってもらうための場となっております。

今後も患者さんにご家族の皆様が楽しめるような場を提供できるよう頑張っていますので、ぜひ来年の秋祭りにもお越しください。



精神保健福祉士 渡邊 正基

いきいき看護・介護

1病棟 看護師 千葉 理絵

11月23日は「勤労感謝の日」。「勤労を尊び、生産を祝い、国民互いに感謝し合う」という趣旨で制定された祝日です。働いている人への感謝をする日、または勤労ばかりに目を向けず、家族や大切な人、周りの全てに対して感謝する気持ちを持ちたいですね。

感謝を伝えることで、「幸福度が高まる」「体調が良くなる」「人間関係が良くなる」「生産性が高まる」といった好循環が生まれます。科学的研究の結果から、感謝をすることでセロトニンやノルアドレナリン(情動や感情に作用)、サイトカイン(抗炎症および免疫力)、コルチゾール(ストレスホルモン)、血圧、心拍数、血糖値など、様々な体内のシステムのバランスが取れることが分かっています。

では具体的に何をすればよいか。感謝を伝える方法をいくつかご紹介します。

- ・「当たり前」ではなく些細な事でも「ありがとう」と言う
- ・しばらく会っていない人への感謝のメッセージを送る
- ・感謝日記をつける
- ・折りや瞑想で感謝をする

また、つい忘れがちなのが、一生付き合うパートナーである自分の身体への感謝です。自分のために毎日一生懸命に働いてくれてありがとう。そう思うことで、以前よりももっと身体にとって「大切なこと」にお金や時間を使おうと意識できるかもしれません。

最後に、毎朝、目覚めるときのような当たり前の日常に感謝し、自分からどんな幸運を呼び寄せていきましょう。

皆さんの心が「ありがとう」で満たされる毎日になりますように。

